

科 目 名

**西洋建築史**  
**History of European Architecture**

(昼間) 2年 前期 2単位 必修  
 (夜間) 2年 前期 2単位 必修

内 丸 恵 一

概 要

現代建築は、主に西ヨーロッパで起こったモダニズムの建築を基礎としているが、そのモダニズムは、西洋建築の歴史的な変遷を前提としている。多様な建築の形態と思想が氾濫する現在、建築の設計者は自分自身で建築を考えるための基本的知識を持つておく必要がある。西洋建築史は、そのような重要な基本的知識の一つである。本講義は、西ヨーロッパの古代から近世（19世紀中頃）にいたる建築の様式や形態が、当時の社会的状況の中で、どのように変遷したかを講ずるものである。

学習目標

- (1) 西洋建築史の大きな流れを理解すること。
- (2) 基本的知っておかなければならない歴史的建築物について理解すること。
- (3) 政治・経済・宗教・思想・地域性（民族性）などの社会的状況と建築との関わりを歴史的に理解し、現代社会の中での自らの建築を考えるための基礎となること。
- (4) 講義中に行う、幾つかの代表的な歴史的建築物の空間の意味の読み取り作業を、自らの建築を設計するためのバックボーンとして理解すること。

授業計画

テ ー マ	内 容
① 全体の概説	古代から近代までの全体の歴史的流れについて
② 古代ギリシャ	古代の概観および古代ギリシャの神殿と建築思想
③ 古代ローマ	古代ギリシャとの関連性と差異性の統合としての古典建築の成立
④ 初期キリスト教建築	中世の概観および発生時のキリスト教建築
⑤ ビザンティン建築	東ローマ帝国の初期ビザンティン建築を中心として
⑥ プレロマネスク建築	中世ヨーロッパ建築の本格的はじまり
⑦ ロマネスク建築 1	ロマネスク建築の概観およびドイツロマネスク建築
⑧ ロマネスク建築 2	フランスのロマネスク建築を中心に
⑨ ゴシック建築	都市の大聖堂としてのゴシック建築の空間とその意味
⑩ ルネサンス建築 1	初期ルネサンスと盛期ルネサンスの建築
⑪ ルネサンス建築 2	ミケランジェロとマニエリスムの建築
⑫ バロック建築	ルネサンス建築の変容、近世の激動期における教会堂建築、イタリアを中心に
⑬ 古典主義建築	バロックと同時代の古典的なルネサンス建築の後継者、フランスとイギリスを中心に
⑭ 新古典主義	近世と近代のはざま、建築様式の崩壊と近代建築の先駆け
⑮ 定期試験	

授業方法

配布プリントに沿って、適宜スライドやビデオを使いながら授業を行う。

学習到達度の評価

- 1) 授業中に学生からの質問を受け、必要な場合は講義内容に関する補足説明を行う。
- 2) 受講生全員に配布プリントを筆写させ、適宜ノートを回収する。チェックして理解不足と考えられる学生には、ノートの返却時に指導する。
- 3) 試験終了後に定期試験の結果とともに講評を記した文書を掲示する。

評価方法

講義中に行うノート提出により試験の受験資格を得るものとし、定期試験にて判定する。

教科書・教材

日本建築学会 編「西洋建築史図集」彰国社  
 配布プリント

参 考 書

森田慶一 著「西洋建築史入門」東海大学出版会  
 西田正嗣 編「ヨーロッパ建築史」昭和堂  
 熊倉洋介 他「西洋建築様式史」美術出版社

履修上の注意

ただ講義で教えられたことを理解するだけでなく、西洋の建築や美術、歴史に興味をもって取り組んで欲しい。そうすれば、日常生活の中からもさまざまな情報や学ぶ機会が入ってくるはずである。

オフィスアワー

講義終了後1時間、研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。

「建築計画コース・建築構造コース」における位置づけ	必修／選択の別	学習保証時間
本科目は、シラバスに記載されている建築学科の学習・教育目標の主としてB2に関連する。	必修	22.5時間